

平成27年度 第7回富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会
議事録

日 時	平成28年3月8日 (火)			開 会 午後 2時30分	閉 会 午後 3時55分
場 所	全員協議会室	出席者数	委員定数12名中 出席者9名		
出席者	委 員	鏡会長、昼間副会長、岩村委員、根岸委員、金子委員、 長南委員、深野委員、星委員、吉田委員 ※欠席 齋木委員、関根委員、森田委員			
	事 務 局	【事務局職員】 島田総合政策部長、水口政策企画課長、磯谷政策企画課副課長、 高野政策企画課主任 (株)富士通総研 藤原			
配付資料	<p>第7回富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 次第</p> <p>資料1 「富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」に対する パブリックコメントの結果について</p> <p>資料2 富士見市キラリと輝く創生総合戦略(案)【概要版】</p> <p>資料2 富士見市キラリと輝く創生総合戦略(案)</p> <p>資料3 富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略について(答申)(案)</p>				
公開・ 非公開	公開 (傍聴4名)				

会 議 事 項

1 開会 総合政策部長

2 会長あいさつ 鏡会長

3 議事（進行：鏡会長）

（1）パブリックコメントについて

資料1に基づき事務局から意見概要と市の考え方（案）を説明。

質疑応答

副会長：今回のパブコメの意見は、行政の中で夢のあるアイデアとしてフォローし実現に向けて取り組んでほしい。

副会長：総合戦略について、何点か伺いたい。

○P.5の総合計画との関連性の中で、「後期基本計画のなかで反映していく」とした理由は？第6次基本構想への反映はどう考えていくのか？

○ららぽーと富士見開業による影響や、シティプロモーションなど前回までの総合戦略（案）と一部表現が変わっている部分があるが？

○P.19で外国人の動向分析が入っているが、総合戦略ではどう考えるのか？

事務局：○まずは後期基本計画の中にきっちりと反映していくとの考え。今回の総合戦略は中長期的視点の施策も入っていることから、第6次基本構想も今後策定を進めていく中で意識していく。

○事務局として表現を抑制したことはなく、所管課との議論や現実性を踏まえた表現としている。

○外国人の動向分析は、現状の分析結果として最終的に人口ビジョンに含めて、載せさせてもらった。施策については、防災やコミュニケーション、社会保障関係などをはじめ継続的な支援が必要なことは当然認識している。外国人観光客に関する施策を内部的には考えてはいるが、まだ具体的施策としては打ち出せてはいない。

会 議 事 項

(2) 答申について

資料2・3に基づき事務局から総合戦略の答申（案）を説明。前回審議会時に提示したものから、前回審議会時の意見やパブコメの意見などを踏まえて修正したものとなっている。なお、答申書の頭紙は、鏡会長に案を作成いただいた。

質疑応答

会 長：答申書の意見には、これまでの審議会で、熱のこもった議論を行ったことを書いている。また、これまでの行政計画と違い、行政だけでなく市民や各界階層の協力のもと、事業を推進していく必要があると考えているので、それも文案の中に入れた。勿論、最終的には行政の努力がなければ達成されないことが多いので、行政には厳しい財政状況の中ではあるが、積極的に推進を期待するとまとめさせてもらった。

委 員：「積極的に」の文言を入れてはどうか？

会 長：修正したい。

意見など

委 員：K P Iに意識調査の満足度などを載せているが、検証年度ごとに調査を実施していくのか？

事務局：市民意識調査は3年に1度実施しているので、次回調査実施時に検証となる。取り組み内容と効果をまとめたものを検証してもらう予定。

委 員：まとめにあたっての努力は認められるが、きれいにまとめられてしまった感がある。これをやりたいという核となる施策があればよかったと思う。

委 員：内容的に良くできていると思う。

委 員：総合戦略という性格上、全体を網羅するものはやむを得ないと思うが、実行段階で市として重点的に進めていく施策に留意してもらい、一步ずつ計画全体を推進してもらえればと思う。

委 員：総合戦略と、総合計画との関連性がどうしてもわかりづらい。

事務局：今回の総合戦略は、人口減少社会の克服という特定の目的に絞って抜き出し

会 議 事 項

て策定している。また、2060年という長期の視点に立ち、まち・ひと・しごとに着目して策定している。ただ、管理的には、基本計画や実施計画、予算の中に織り込んで施策を進めていく形になる。

委 員：できないことに取り組むのも必要だとは思っていた。

○キャリアアップや、仕事を生きがいにしていくための取り組みが必要と考える。奨学金やインターンシップ、大学との連携などにより、人を育てる方向に進んでほしかったと思う。

○特別支援学校生の進学や、どう生きていくか、どう支援していくかという問題もある。

○外国の方についても、地域で何かできるという想いを持っている方もおり、その方たちと共に生きていかなければいけない。

○農カフェなどの取り組みを通して、大人も子どもも含め農業への理解が進むのではないか。

○パブコメであった意見を宝物として記録しておき、機会をみつけて活かしていくべきだと思う。答申で終わりではなく、今後も見続けていく必要があると思う。

事務局：総合戦略は進化させていくものだと思っている。例えば人材育成についても制度が具体的になったり、原石と思えるパブコメの意見も具体化できるようになれば、改訂版を策定していきたい。また、今後評価をしていただき評価結果を踏まえた改訂も考えたい。

会 長：審議会としては、PDCAサイクルにのって、検証する役割もある。

委 員：計画期間や予算の制約を考えるとこうならざるを得ないと思うが、諦めてもよいのかと葛藤している。しごとの戦略がどの程度あるのかをみると、一般論の内容で各論レベルはまだ足りてないと思う。今後、いろいろな案を出し市民に訴えながら、議論していく必要があるのではないか。PDCAはあるものを評価していきがちになるため、新たにつくっていくための戦略として考えていく必要があると思う。そうでないと合計特殊出生率1.4の実現は難しいと思う。ここで終わりではないと思う。

会 議 事 項

副会長：今回の総合戦略は、交付金のための計画という側面と、施策展開の根拠という側面がある。この2つを踏まえ、市民を巻き込んで施策を展開していくかが課題だった。委員の意見を取り込んで総合戦略は策定され、これを根拠に施策展開しやすくなっていると思う。今後は、事務局と一緒に検証していく必要がある。

ハード中心ではなく人に注目する計画は非常に難しい。これからの人口減少社会の中では、人に注目していくべきだと思う。人をつくる計画づくりは、難しいが将来性がある。今後の展開・進化に期待したい。

会 長：元々この計画は、国の地方創生の取り組みを受けて、自治体に策定が要請されたものだが、国はすでに一億総活躍社会に重点が移り始めるなど、自治体は振り回されている感がある。しかし、富士見市にとっては、ららぽーと富士見開業以降の変化が大きい。特に、新たなまちづくりの視点は、様々な団体や産業等とコラボレーションする重要性が認識されてきたと思われる。従来の行政計画は、ハード中心の計画が多く、その意味では人に焦点をあてた計画であるまち・ひと・しごと創生総合戦略は新しい視点が必要であった。しかも、今までの行政は、どちらかと言えば儲からない仕事をやっていたが、人やまちが輝き仕事を創るためには、利益ややる気を創出しなければならず、今までの行政とは全く異なった視点が必要になる。いかに市民がやる気になり、協働を進めていくかが重要になる。変わり始めている今の富士見市の状況においては、新しい計画は意味あるものと言える。委員の熱意はまちづくりに参加したいという気持ちの表れだと思う。委員の中には、必ずしも今回の総合戦略が想いを満たすものになっていないかもしれないが、種は撒いてあると思う。繰り返しになるが、この総合戦略の花を咲かせるのは行政だけではなく、様々な方の協力によって完成に向かうものであり、その素地は作れたと思っている。

本日閉会后、会を代表して副会長とともに、市長へ答申させていただく。

会 議 事 項

(3) 今後の予定について

事務局：来年度は、まず5月に平成27年度の先行型交付金事業の検証、来年3月頃に、平成28年度の施策や事業の検証をお願いしたい。

会 長：5月10日（火）と来年3月14日（火）に開催したい。

事務局：5月10日（火）の開催場所は、ピアザ☆ふじみの予定。

4 閉会 昼間副会長